

# 日本性感染症学会誌

Japanese Journal of Sexually Transmitted Diseases

第15巻 第1号 Supplement

性感染症 診断・治療 ガイドライン 2004



日本性感染症学会

JAPANESE SOCIETY FOR SEXUALLY TRANSMITTED DISEASES

# 性感染症 診断・治療 ガイドライン

—2004年度版発行に際して—

平成16年6月

日本性感染症学会  
理事長 新村 眞 人  
ガイドライン委員会  
委員長 川 名 尚

日本性感染症学会では2002年に「性感染症 診断・治療 ガイドライン」を発行しましたが、この2年間に、薬剤耐性淋菌の変貌、ヘルペスウイルスやHIV感染症に対する新薬の開発、新しい検査法の出現など、性感染症の医療にも新たな展開がみられました。

この状況に鑑みて本学会では、改訂を加えて2004年度版を発行することにしました。この際、2002年版を基本にして改訂・加筆するということを基本方針としました。すなわち、各疾患に担当者を決め、2002年度版の内容を検討し、改訂の必要あるものについては案を作ってもらい、それを1～10名のコメンテーターに更にご意見をいただいて、最終案を作ってもらいました。したがって、2002年度版で変更の必要のないものは原則として同じものが載っています。そして、常任理事会で最終的に承認されたものが2004年度版です。

今回の改訂にご尽力いただいた担当者、コメンテーターの方々には、この場を借りて心より御礼申し上げます。

次頁に担当者およびコメンテーターの方々のお名前を列挙させていただきます。なお、2002年度版とほとんど変わっていないものについては、2002年度版を作成した方々を担当者としてあります。

このガイドラインについてお気付きの点がありましたら、是非、学会事務局宛てにお申し出下さいますようお願いいたします。

今回の改訂に当たり、本邦における性感染症の動向を示す厚生省国立感染症研究所の感染症情報センターのデータを載せました。また、平成15年11月に感染症新法の改正が行われ、「尖形コンジローム」は当学会の意見が取り入れられ「尖圭コンジローム」になりました。その他の変更点は、本誌の厚生省健康局結核感染症課 神ノ田 昌博 氏の論文に詳しく述べられていますので、ご一読下さい。

末尾に、資料として、厚生省告示であるSTDとHIVの「特定感染症予防指針」を収録してあります。これらは、5年目の見直しの時期が来ていますが、ここでは発表時のまま、としてあります。

## 担当者

梅毒	大里 和久
淋菌感染症	守殿 貞夫・松本 哲朗
性器クラミジア感染症	野口 昌良
性器ヘルペス	本田 まりこ・川名 尚
尖圭コンジローマ	新村 真人
性器伝染性軟属腫	本田 まりこ
陰トリコモナス症	松田 静治
細菌性陰症	久保田 武美・松田 静治
ケジラミ症	大滝 倫子
性器カンジダ症	久保田 武美
非クラミジア性非淋菌性尿道炎	出口 隆
軟性下疳	津上 久弥・小島 弘敬
HIV 感染症/エイズ	木村 哲・白坂 琢磨
A 型肝炎	岡 慎一
B 型肝炎	小池 和彦
C 型肝炎・G 型肝炎	柏木 征三郎
赤痢アメーバ症	増田 剛太

## コメンテーター

以下の方々を上記の疾患の 1～3 項目についてコメントを頂きました。

赤城 久美子、荒川 創一、伊東 文行、井上 正樹、岩本 愛吉、  
江藤 隆史、大里 和久、岡 慎一、小野寺 昭一、柏木 征三郎、  
守殿 貞夫、川島 真、川名 尚、河村 信夫、菅生 元康、  
田中 正利、塚本 泰司、津川 昌也、出口 隆、新村 真人、  
根岸 昌功、野口 昌良、廣瀬 崇興、本田 まりこ、松田 静治、  
保田 仁介、安元 慎一郎

# 目 次

性感染症 診断・治療 ガイドライン -2004 年度版発行に際して-

## ガイドライン

梅毒	5
淋菌感染症	8
性器クラミジア感染症	14
性器ヘルペス	17
尖圭コンジローマ	21
性器伝染性軟属腫	24
膣トリコモナス症	26
細菌性膣症	29
ケジラミ症	31
性器カンジダ症	34
非クラミジア性非淋菌性尿道炎	38
軟性下疳	41
HIV 感染症/エイズ	43
A 型肝炎	50
B 型肝炎	52
C 型肝炎・G 型肝炎	55
赤痢アメーバ症	57

## 報 告

発生動向調査からみた性感染症の最近の動向	60
----------------------	----

## 資 料

性感染症に関する特定感染症予防指針 (H12 厚生省告示 15 号)	70
後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針 (H11 同 217 号)	74